



パン用小麦品種「ゆめあかり」の省力施肥技術を開発

— 実肥作業を省略して、安定収量・高蛋白含量を実現します —

開発の背景・ニーズ

本県育成の硬質小麦品種「ゆめあかり」は、おいしいパンや中華麺ができる小麦として、現在作付が広がっています。小麦は穂揃期～開花期の追肥（以下「実肥」）を行うことにより、実需者が求める高い子実蛋白質含量（以下「蛋白含量」）を確保できます。しかし、実肥実施時期が水稻栽培の春作業と重なることから、生産者にとっては実肥作業が大きな負担となっていました。

そこで、実肥作業を省略し、かつ安定した収量と蛋白含量（品質目標：12.5～14.0%）を確保できる「ゆめあかり専用肥料」の開発とその肥料を用いた省力施肥技術の開発に取り組みました。

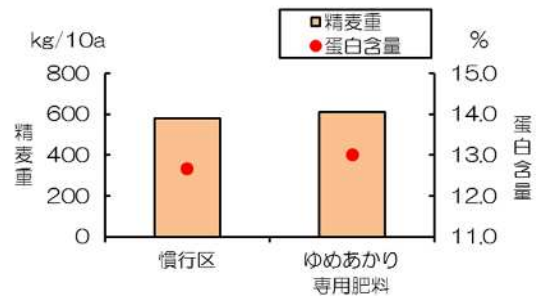
成果の内容

実肥作業を省略できる肥料として、基肥として施用し、実肥実施時期に窒素成分が溶出する肥効調節型肥料を配合した「ゆめあかり専用肥料」を開発しました。

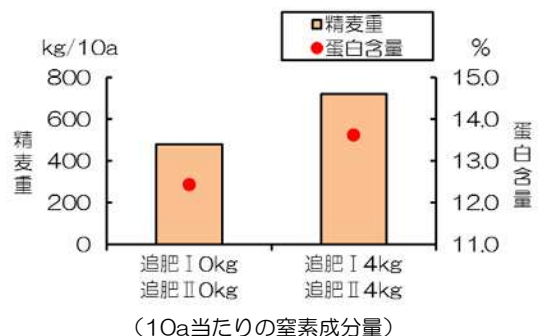
県下16ほ場で現地試験を行い、ゆめあかり専用肥料区（実肥施用なし）と慣行栽培（実肥施用あり）で比較したところ、実肥を施用しなくても、慣行と同等以上の収量と蛋白含量を確保することができました。さらに、「ゆめあかり専用肥料」を基肥として施用し、追肥Ⅰと追肥Ⅱをそれぞれ4kg/10a（窒素成分）ずつ施用することで、高い収量と蛋白含量が確保できました。



「ゆめあかり専用肥料」で実肥を省略できる体系を開発



「ゆめあかり専用肥料」と慣行栽培の比較
(県下16ほ場の現地試験結果の平均、2017年産)



ゆめあかり専用肥料の基肥施用時の追肥比較
(2017年産と2018年産の平均)

愛知県農業への貢献

安全・安心な県産小麦への消費者からの期待が高まるなか、本肥料の利用により収量と蛋白含量が安定した「ゆめあかり」の省力的な生産が可能となり、さらなる生産の拡大が期待できます。

【本研究は、JAあいち経済連との共同研究で実施した成果です】